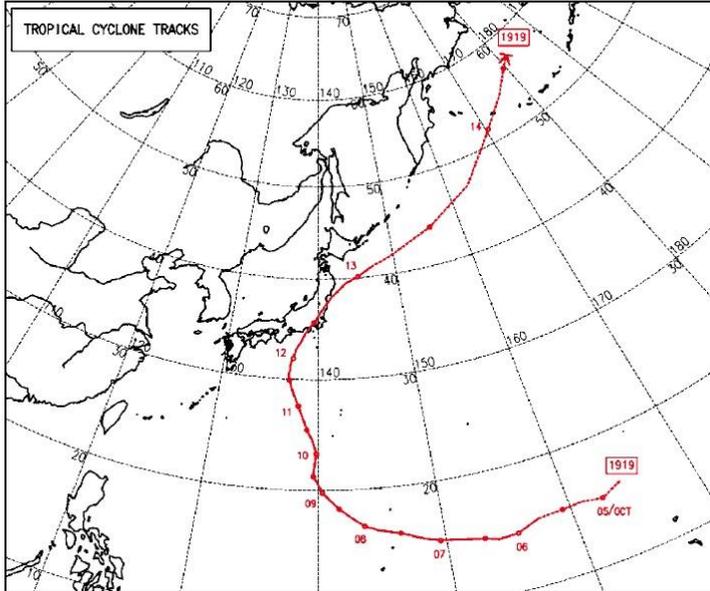


令和元年東日本台風（第19号）のふり返り

「土砂・洪水氾濫」の体験！！

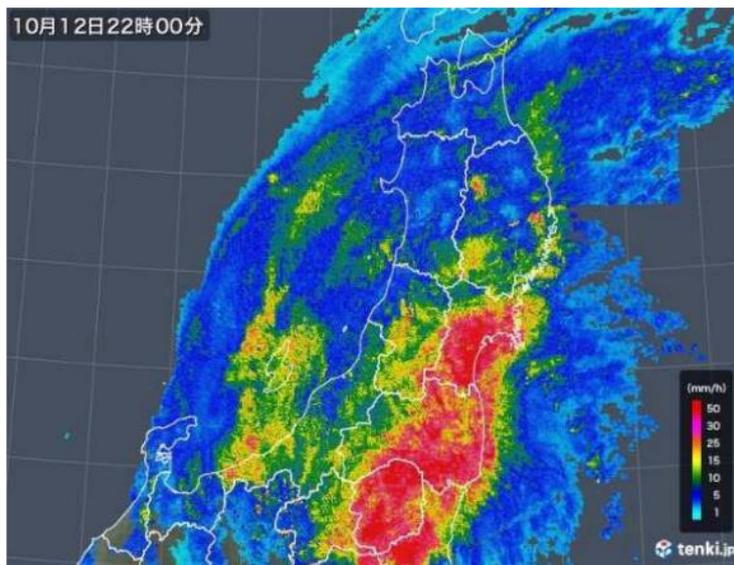
1 災害の形、被害の大きさ

経路図



出典：気象庁

昭和33年22号台風（狩野川台風）に類似するコースをとった



(出典：tenki.jp)

静岡上陸前から大雨となる

①概要 … 観測史上1位の豪雨が町を襲った 雨量確立1/710年

- 台風が静岡県に上陸する以前から大雨となる。
- 3 時間、6 時間、12 時間、24 時間雨量は観測史上最大となる。
- 総雨量は大内観測所 612 mm、筆甫観測所 594mm を記録する。
新川流域では総雨量 787 mm、1 時間あたり 113 mm を記録する。
- 被害概要 … 丸森町災害記録誌より
災害関連死 1 名を含め 11 名が犠牲となり、1 名が依然行方不明
住家被害は 1,068 件、公共土木施設、農林業施設、行政・学校施設、
商工業施設など被害総額 472 億 8 千万円の被害額
(昭和 61 年の「8.5 災害」は約 56 億円)
- 町災害対応経過
10 月 12 日 14:00 避難準備・高齢者等避難開始発令（警戒レベル 3）
15:20 避難勧告発令（警戒レベル 4）
19:50 大雨特別警報、災害発生情報発令（警戒レベル 5）
- 支援 令和 2 年 4 月末までの 162 日間のボランティア活動、
全国、海外からのボランティアの総人数は延べ 16750 人

②「土砂・洪水氾濫」とは … 被害状況は別添写真

- ▼ 土砂災害：町内 150 箇所以上の土砂崩れが発生、真砂土といわれる花崗岩が風化してできた地質の地域に集中している。土中に大きな石を巻き込んで崩落したことにより被害が大きくなった。
- ▼ 越水・決壊：町内 6 箇所全ての雨量観測所で史上最大の雨量を記録
堤防決壊は 18 箇所、内川 10 箇所、新川 4 箇所、五福谷川 4 箇所

現象が多く見られた。多くの川が濁流となった。

▼ 浸水・内水氾濫：短時間大雨により、各地で浸水、内水氾濫が発生した。丸森地区では排水ポンプの能力を超える大量の降水が断続して発生し役場周辺では浸水解消に4日を要した。

低い地域では排水が進まず、浸水継続時間が長くなった。阿武隈川は過去最高水位丸森橋で23.44m、今までの最高水位は昭和61年「8.5災害」の22.23m（氾濫危険水位は22.30m）

③記録的な雨量の状況・・・「宮城県河川流域情報システム」より

河川名 観測局名	内川 筆甫		内川 内川		阿武隈川 丸森		雉尾川 大内	
降雨開始時刻	10/11 20:50		10/11 22:20		10/11 22:20		10/11 20:00	
月/日時：分	時量 (mm)	累加 (mm)						
10/12 00:00	0.0	0.5	0.0	1.0	0.0	1.0	2.0	3.0
10/12 01:00	1.5	2.0	3.0	4.0	4.0	5.0	0.0	3.0
10/12 02:00	1.0	3.0	0.0	4.0	1.0	6.0	1.0	4.0
10/12 03:00	1.0	4.0	1.0	5.0	1.0	7.0	2.0	6.0
10/12 04:00	4.5	8.5	2.0	7.0	2.0	9.0	4.0	10.0
10/12 05:00	1.5	10.0	2.0	9.0	2.0	11.0	2.0	12.0
10/12 06:00	1.0	11.0	3.0	12.0	3.5	14.5	2.0	14.0
10/12 07:00	0.5	11.5	2.0	14.0	2.0	16.5	1.0	15.0
10/12 08:00	1.0	12.5	2.0	16.0	2.0	18.5	2.0	17.0
10/12 09:00	1.5	14.0	2.0	18.0	1.5	20.0	2.0	19.0
10/12 10:00	7.5	21.5	7.0	25.0	5.5	25.5	18.0	37.0
10/12 11:00	9.0	30.5	7.0	32.0	5.0	30.5	9.0	46.0
10/12 12:00	16.5	47.0	9.0	41.0	8.5	39.0	13.0	59.0
10/12 13:00	16.5	63.5	17.0	58.0	14.5	53.5	39.0	98.0
10/12 14:00	13.0	76.5	12.0	70.0	12.0	65.5	24.0	122.0
10/12 15:00	31.0	107.5	10.0	80.0	6.5	72.0	25.0	147.0
10/12 16:00	33.0	140.5	12.0	92.0	14.0	86.0	18.0	165.0
10/12 17:00	44.5	185.0	22.0	114.0	16.5	102.5	38.0	203.0
10/12 18:00	54.5	239.5	38.0	152.0	35.5	138.0	51.0	254.0
10/12 19:00	66.5	306.0	34.0	186.0	30.5	168.5	51.0	305.0
10/12 20:00	74.5	380.5	33.0	219.0	45.5	214.0	53.0	358.0
10/12 21:00	69.0	449.5	41.0	260.0	45.5	259.5	67.0	425.0
10/12 22:00	58.0	507.5	54.0	314.0	47.0	306.5	77.0	502.0
10/12 23:00	28.0	535.5			60.0	366.5	49.0	551.0
10/13 00:00	23.0	558.5			23.0	389.5	26.0	577.0
10/13 01:00	20.0	578.5			18.0	407.5	16.0	593.0
10/13 02:00	11.5	590.0			19.0	426.5	15.0	608.0
10/13 03:00	1.5	591.5			0.5	427.0	1.0	609.0
10/13 04:00	2.5	594.0			0.0	427.0	3.0	612.0
10/13 05:00	0.5	594.5			0.0	427.0	0.0	612.0

2 私の緊急避難までの行動

▼ 2日前のテレビで「昭和33年の狩野川台風に近い進路を通る」、

気象予報士のこの言葉で「危険スイッチ」が入る！

この台風は丸森地区の木橋を全て流したことで語り継がれていた。

- ・テレビで台風の進路、大きさ、強さの情報収集を開始する。

※台風の大きさ：強風域（風速 15m/s 以上）の半径で大型と長大型

強さ：最大風速で強い、非常に強い、猛烈なに区分

家の回り点検、防災マップ、懐中電灯、避難用品収納クリアボックス、携帯電話充電器などの確認と準備を行う。

- ・パソコンで、筆甫と大内観測所の雨量を収集、時々阿武隈川の水位を把握する（伊達市と丸森橋観測所）。雨雲の動きも随時確認する。

- ・自主防災会の副会長として、会長（区長）と情報共有し、電話または出向いて地域内に声掛け、注意喚起をする。

※ 雨量と水位情報は「宮城県河川情報システム」より収集

※ 雨雲の動き・・・「ナウキャスト」より収集

この2つの情報で地域内河川の増水を予測する。

夕方から上流の筆甫観測所の時間当たりの雨量が 30 ミリ、40 ミリ、50 ミリ代と急激に増加するのを確認、夜間のこの雨量は初めて経験する極めて危険な状況と判断し、避難を決断する。

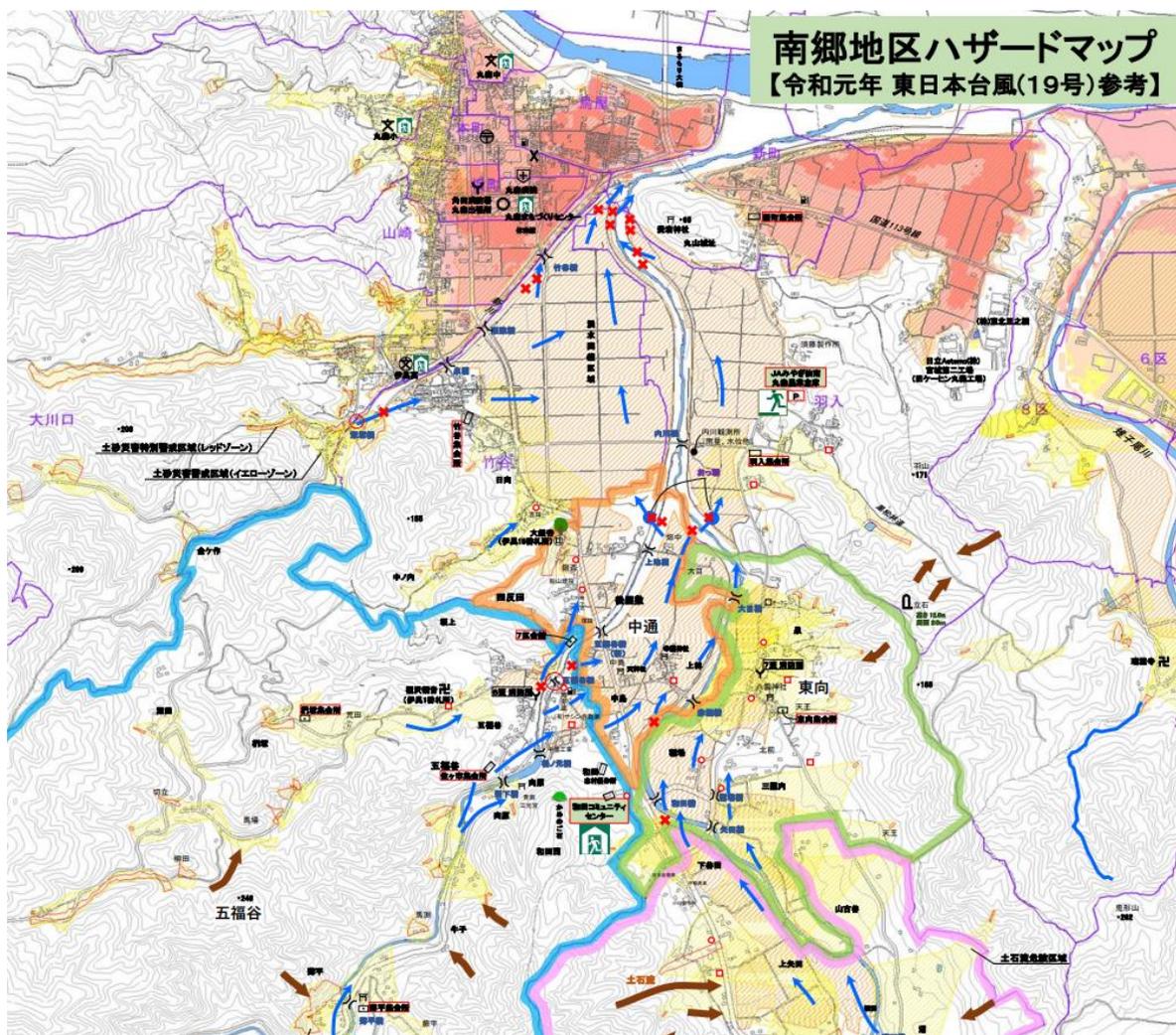
家族 6 人で緊急避難するが、道路が冠水していて避難先が決まらない！ 途中で声をかけられた知人宅に避難する。

3 教訓

記録的な大雨は、また起こりうるという前提で防災を考える。

- ① 防災マップで家の周囲、地域の状況を把握

〈参考〉南郷地区の4つの行政区で作成した防災マップ



② 「マイ・タイムライン」の作成・・・時系列の行動計画

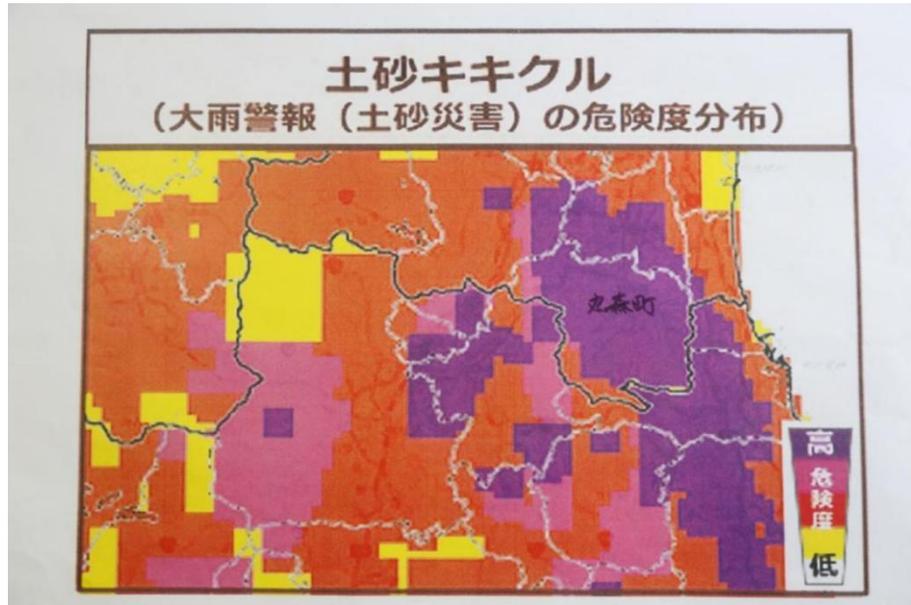
・防災情報について

「どの情報を、何で収集できるか、するか」事前に理解しておく。
テレビをインターネットにつないでおくと、データ放送で多くの情報を見ることができる。

・防災情報収集例

台風情報・雨雲の動き…テレビ・ラジオ、パソコン、スマホなどで
雨量や水位情報…テレビ、パソコン、スマホなどで

「キキクル」として気象庁から土砂災害、氾濫、
浸水情報が出されている。



町からは、避難情報などがメールで発信される。

• 避難について

「どの時点で、どこに、だれと、何で、何を持って！」と具体的に！避難が遅れると、道路の冠水や土砂崩れなどで通れなくなる。

③ 人のつながり、地域のつながりを深めましょう

一人では災害対応に限界がある。日ごろから「お互いさま」の関係を深めておく。

④ 次の世代へ伝えましょう

自然災害の経験による知恵や教訓を伝えることは、安全で豊かな家庭生活や町づくりにつながります。



阿武隈川氾濫の慰霊碑 「水没廿六員到彼岸」と刻まれている

災害に向き合い、人に寄り添う